

アドバタイジング・ウィーク (AW) で考えさせられた事

ニューヨークで毎年九月半ばに開催される「アドバタイジング・ウィーク (Advertising Week 以下AW)」というイベントをご存じの方は多いと思う。世界中の広告代理店、広告主、メディア、アドテクノロジー企業が集まる広告業界の一大イベントだ。開催期間は一週間、カンヌライオンズ国際クリエイティブ・フェスティバルに匹敵する規模で、日本からの出張者も大勢参加する。二〇一三年九月は一〇周年という一つの区切りのタイミングだった。昨年はJ A A Aの米国研修団もこの開催時期に合わせてスケジュールが組まれ、レポートを読まれた方もいるだろう。

一〇年間の進化

一〇年前の二〇〇四年と言えばスパーボウル・ハーフタイムショーでのジャネット・ジャクソン右胸露出事件があり録画再生GRPが考慮される年だった。日本ではアテネオリンピックの北島選手の高メダルに沸いていた時代。ネット業界に目を向ければグーグルがGmailのサービス提供を開始し、フェイスブックがハーバード大学の学生限定でサービスを開始した年。その頃は未だ 아이폰、アンドロイ

ド、ツイッター、ユーチューブ、ネットフリックス、クラウド、タブレット、ウィキペディア、などはまだ存在せず、テレビや新聞がメディアの中心に君臨していた。

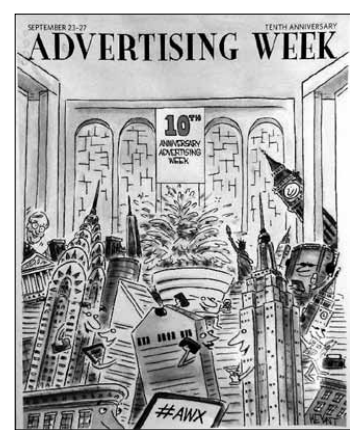
イノベーションのバロメーター

二〇一三年のAWの参加企業を眺めてみると一〇年前には存在していなかった企業が半数以上を占めている。マーケティング業界ではテクノロジーをコアにした新興企業の進出が目覚ましい。この流れは近年加速し、一歩先を進む欧米では「広告業界の再編」と「グローバル化」のスピード感がさらに増している。AWでは、産まれるビジネス

ス・イノベーションの数だけガイドブックのページ数が増えている感じだ (写真1)。

ヨーロッパに広がる

AWは二〇一二年よりヨーロッパ版としてロンドンでも開催されている。筆者はJ A A Aのご縁から四月に主催者を訪ねロンドンの現場を視察してきた。ニューヨークはオムニコムとIPGのお膝元であるが、ヨーロッパはWPPとビュプリシスのお膝元。壇上にWPPのマーチン・ソレルCEOとニュース・コーポレーションのロバート・トムソンCEOが並ぶというセッションが初日にあり (写真2)、連日五〇コマが開かれる四日間だ。キックオフのGALAパーティーは何とイギリス王室ヨーク公の招待で、宮邸セントジェームス・パレスに招かれた。カメラ・携帯持ち込み不可、身分証明書二通持参という本格国家行事だ。「招待状写真 (写真3)」「マーケティング、アドバタイジング」が国を上げて重要な産業であると認識され



(写真1) 10周年を迎えたAWのオフィシャルガイドブック。260ページの参加企業の広告が並び、まるで図鑑だ。出典: advertisingweek.com/guide/2013/



(写真2) WPPマーチン・ソレルCEOと、ニュース・コーポレーションのロバート・トムソンCEO。42分頃から日本の広告ビジネスについて語っている。収録ビデオ: advertisingweek.eu/replay/#video-data=156



(写真3) ロンドンAWの初日パーティーは皇室からの招待だった。



(写真4) AWのロゴの下には、イベントを応援するメディア企業のロゴが並ぶ。

ている、少なくともそう受け取れる組み合わせだ。

日本が発信するイノベーションとは?

日本には東京モーターショーを始め、各産業には周辺業界企業が一同に集まる「インターナショナル・カンファレンス」が存在する。さて広告業界は?と考えてみた。アドテックが開催されているが業界包括的な感じはしない。一方、私達は毎年AW、カンヌ、スパイクアジア (シンガポール) と海外に

情報を求めツアーに出る。日本にも世界に名だたる広告会社、広告主、メディア、テック企業が存在するが、これらが一同に会する国際舞台が日本に無いのは何故か。上海やシンガポールの人たちが「視察に来るニエグゼクティブが集う」機会が日本に有っても良いと思うがどうか。

例えばアジアリージョナルのメディアバイイング企業のトップが一同に会し、旬のテーマを語るとか。あるいはアジアの注目マーケティング企

業、例えばチャイナ・モバイル (中国)、NHN (韓国)、楽天、電通、ソフトバンクなどのCEOが壇上に登場するセッションなんて、世界が聞いてみたいイノベーションがあるはずだ。AWのような国境を超える業界交流は新しい参入を呼び、新しいイノベーターを産むきっかけとなる。個人希望として日本がガラパゴスとならぬよう、アジア他国でのAW開催にならぬよう、日本の広告大手企業とJ A A Aで世界に向けて旗を掲げて欲しい。J A A A総会出席の皆様、いかがでしょう。